

# 「ほっかいどう学」地方創生塾（伊達市大滝区） 2年目 第2回

日 時	令和2年9月5日（土） 14時～16時
会 場	TOYA CAFE
参加者	10名
内 容	テーマ「有珠山噴火時の状況と避難場所としての 大滝の役割について」

第2回ほっかいどう学地方創生塾（伊達市大滝区）は、会場を壮警町にある「TOYA CAFE」に移し、火山マイスターの長友 加也 氏からこれまで起きた有珠山噴火時の状況説明と避難場所としての大滝の役割についてお話しがありました。

1977～1978年までの噴火と2000年の噴火した際の有珠山の様子や周辺に住む住民の動きについて写真や資料を使って説明いただいた後、20年に1度の周期で噴火すると言われている有珠山の災害について、大滝区の住民が避難場所のサポーターとして、避難者の困り事の対応など自分たちができるアイデアを出し合いました。

最後に長友氏から、火山マイスターは観光ガイドをするのではなく、各地域で住民の防災意識を高める取組を行う役割、災害前から学びの場を通して「地域住民をつなげる」役割があるので、たきしんくらぶのメンバーにも火山マイスターになってほしいとお願いがありました。参加したメンバーから、「壮警町が火山と共生しているということがわかりました。行政のできること、地域住民のできることに整理しておくことも、大切だと感じました」や「大滝住民として有珠山噴火を他人事とせず、いざという時に他の地域と助け合えるような関係性を築いていくことが大切ではないかと感じました」という感想が寄せられました。

## 成果と課題

「噴火に備えるにはまず噴火について知らなければならない」という気付きから始まった今回の学習会は、わかりやすい説明のおかげで有珠山についてより身近になりました。そして、実際に壮警町民の方と交流することで、大滝という枠を超えた災害対応のイメージを具体的に持つことができました。

課題としては、住民レベルの連携をどのように拡大していくか、また行政とどのような連携を実現させていくことができるか、今後は具体的な「備え」に対する学びの場などを持ち、災害対応力アップのための第2、第3の行動を起こして行くことが必要です。



【説明を聴きたきしんくらぶのメンバー】

